

WEEKLY BULLETIN

会報 2016-2017

2月9日(木) 第28号
第2821回例会
第2510地区

●本日のロータリーソング 我等の生業

Rotary



新会員卓話

札幌東ロータリークラブ

不動 直樹 会員

歴史と伝統のある札幌東ロータリークラブに昨年2月25日(木)より入会し1年を迎え、本日卓話をさせていただきますことにより心から感謝いたします。北海道コカ・コーラグループにおいて物流を担っている会社『幸楽輸送(株)』の不動直樹でございます。本日は、生い立ち(病歴)を紹介させていただき、少々でも私をご理解いただけますと幸いです。



私は1960年6月4日(虫歯の日)苫小牧にて、先天性の心室中核欠損症を患って生まれました。1966年3月に手術のため札幌医大付属病院に入院、心臓移植で有名な和田寿朗教授に手術をしてもらいました。その後心臓は順調に回復しましたが、輸血による肝炎にかかってしまいました。非A非B肝炎と呼ばれ、治療のため小学校低学年の間は4年間で1年くらいしか通学できませんでしたが落第することなく、ただその結果①平仮名の書き順がいい加減。②漢字が書けない。(現在治療中)③体育は全見学、または休み。(運動神経ゼロ)。良かったこともありました。①本が趣味になった。②病気の人、病気になった人への想い。③現在スポーツを心の底から子供のように楽しめるようになったのは、大学から病院を北大に変え、人生を変える主治医に出会い私の人生が現在のように変わり、心から感謝しています。

28歳のときに、余命40歳と告げられ、憧れていたアイスホッケーを始めました。人生設計を立てることは無理でしたが33歳の時、当時の最新治療インターフェロン(治癒確率30

本日のプログラム

ロータリー100年を振り返り、
奉仕の道を考える

青木 功喜 会員

%)にて治癒し現在に至ります。

初めてこのように振り返りますと、社会人以降ご紹介した治療以外休むことなく、一生懸命仕事をするのができ、ついでに上手にできないが大好きなアイスホッケー、テニスなどができ、今生きていることは本当に幸せです。折角生きているのですから、これからは私から世の中にお返しをしなければならぬと考えております。バンドもその一環(お役に立っているかは疑問)ですが、歴史と伝統のある札幌東ロータリークラブの一員にならさせていただいたこともご縁かと一所懸命奉仕活動を行いたいと考えております。

最後に、心臓手術のときの思い出ですが、当時の成功率は30~50%くらいであり、毎日のように同じ手術をした入院友達が亡くなっていました。当時は付き添いが必須で、母が付き添ってくれ大変賑やかだったと思います。治ったことの証が、大きいほうの排泄を自分でするということだったと記憶しています。大変な人数が見守る中排泄をしまい、みんなに拍手喝さい『良かった!』と言われました。大変恥ずかしく大切な思い出です。

マンリ-
メ モ

テーブルマスター

例会の各テーブルにはテーブルマスターが指名されています。主たる役割は、例会の短い時間の中でゲストや会員の皆さん方が、楽しく食事をし、語らい有意義に過ごして頂くための配慮をすることです。